

【研究報告】（自2014年4月～至2017年3月）

飯野 厚

著書

- 1 高等学校英語検定教科書『My Way English Communication I New Edition』共著（森住衛他，編集実務主幹），三省堂，2017年3月
- 2 高等学校英語検定教科書『My Way English Expression I New Edition』共著（森住衛他），三省堂，2017年3月
- 3 『英語の語順トレーニング』（監修），英語運用能力協会，2016年10月
- 4 高等学校英語検定教科書『My Way English Communication III』共著（森住衛他，編5高等学校英語検定教科書『My Way English Communication II』共著（森住衛他，編集実務主幹），三省堂，2014年3月
- 5 高等学校英語検定教科書『My Way English Expression II』共著（森住衛他），三省堂，2014年3月

論文

- 1 Effects of task-based videoconferencing on speaking performance and overall proficiency, 共著(Yabuta, Y. and Nakamura, Y.), In S. Papadima-Sophocleous, L. Bradley & S. Thouëšny (Eds). CALL communities and culture – short papers from EUROCALL 2016, Research-publishing.net. pp.196-200, 2016年12月
- 2 「ウェブ会議を取り入れたタスクサイクルが英語スピーキング力に及ぼす影響」共著, 藪田 由己子, 中部地区英語教育学会紀要45, 37-44. 2016年1月
- 3 「ウェブ会議を目的とした発信型の英語指導がスピーキング力, 習熟

- 度, 情意面に与える影響」单著, 日英・英語教育学会誌 JABAET Journal, 19, 87-105, 2015年12月
- 4 The use of oral proficiency tests in the Japanese EFL context: Learners' perceptions, 共著 (Fujii, Akiko and Watanabe-Kim Izumi), 聖心女子大學論叢, 126, 160-174, 2015年12月
 - 5 The effects of video SCMC on English proficiency, speaking performance and willingness to communicate, 共著 (Yabuta, Yukiko), Helm, F., Bradley, L., Guarda, M., & Thoušny, S.(Eds.). Critical CALL –Proceedings of the 2015 EUROCALL Conference, Research publishing. net. pp.254-260. 2015年11月
 - 6 「ビデオ会議による異文化間コミュニケーションが英語スピーキング力と国際的志向性に及ぼす影響」单著, 経済志林, 83/ 1, 121-143. 2015年 6月
 - 7 「シャドーイング練習がスピーキングパフォーマンスに及ぼす影響:産出言語データに基づく分析」单著, 中部地区英語教育学会紀要, 44, 25-32, 2015年 1月
 - 8 「シャドーイングの練習が英語スピーキング力とシャドーイングの認識に及ぼす効果」单著, 多摩論集 (法政大学多摩論集編集委員会), 30, 105-121. 2014年 3月
 - 9 「スピーキングテストにおけるタスク間の関係性:英検スピーキングテストの場合」共著 (籾田由己子, 中村洋一), 清泉女学院短期大学紀要, 32, 45-55. 2014年 3月
 - 10 「ビデオ会議による異文化間コミュニケーションが英語スピーキング力と国際的志向性に及ぼす影響」单著, 経済志林, 83/ 1, 121-143. 2015年 3月
 - 11 「音読・シャドーイングがスピーキングに与える効果」单著, 中部地区英語教育学会紀要, 43, 37-42. 2014年 1月
 - 12 Listeners' Responses in Interaction through Videoconferencing for

Presentation Practices. 共著 (Yabuta, Yukiko. Nakamura, Yoichi), 20 Years of EUROCALL: Learning from the Past, Looking to the Future--- Post Conference Proceedings EUROCALL 2013, 112-116. 2013年11月

口頭発表

- 1 Effects of task-based videoconferencing on speaking performance and overall proficiency ---quasi-experimental design, Eurocall 2016 (European Association for Computer Assisted Language Learning), 2016年8月
- 2 Effects of task based videoconferencing on speaking performance and overall proficiency, CALICO 2016 (Computer-Assisted Language Instruction Consortium), 2016年5月
- 3 Effects of videoconferencing on English speaking ability, TESOL Ontario (Teachers of English as a Second Language Association of Ontario), 2015年11月
- 4 The effects of video SCMC on English proficiency, speaking performance and willingness to communicate, EUROCALL 2015, 2015年8月
- 5 The use of oral proficiency tests in the Japanese EFL context: Learners' perceptions, 外国語教育メディア学会 (LET) 第55回全国研究大会, 2015年8月
- 6 ウェブ会議を伴った発信型指導が英語習熟度・スピーキング力に及ぼす効果, 外国語教育メディア学会 (LET) 第55回全国研究大会, 2015年8月
- 7 ビデオ (ウェブ) 会議による異文化間コミュニケーションが英語スピーキング力と国際的志向性に及ぼす影響, 第45回中部地区英語教育学会和歌山大会, 2015年6月
- 8 WEB 会議による SCMCの 実践がコミュニケーション意欲に及ぼす効

果, 第20回日英・英語教育学会, 2014年9月

- 9 EFL learners' perceived use of conversation maintenance strategies during synchronous computer mediated communication with native English speakers, EUROCALL 2014, 2014年8月
- 10 言語産出データにみるシャドーイング練習がスピーキングパフォーマンスに及ぼす影響, 第44回中部地区英語教育学会 山梨大会, 2014年6月
- 11 Listeners' responses in interaction through videoconferencing for presentation practices, EUROCALL 2013, 2013年9月
- 12 スピーキングテストにおける質問間の関係について, 第39回全国英語教育学会 北海道大会, 2013年8月
- 13 音読とシャドーイング練習がスピーキングに与える影響, 第43回中部地区英語教育学会 富山大会, 2013年6月

その他 (雑誌記事)

1. 「準1級問題の特徴とその対策― [第5回] テストからリスニング力養成とその指導へ」 英語情報12・1月号, pp. 44-45, 2013年12月
2. 「準1級問題の特徴とその対策― [第4回] 英語力と思考力が問われるライティング」 英語情報10・11月号, pp. 44-45, 2013年10月
3. 「準1級問題の特徴とその対策― [第3回] 読解過程とテスト方略の交差点②―速読力を身に着けるには」 STEP英語情報8・9月号, pp. 42-43, 2013年8月

競争的資金獲得研究

1. 科研費基盤研究 (C) 「ウェブ会議を取り入れた発信型の指導が英語スピーキング力に与える影響」 (課題番号26370675) 研究代表者, 2014年度-2016年度
2. 科研費基盤研究 (C) 「大学英語教育におけるスピーキングテストの比

較：指導法及び学習者要因とのモデル構築」（課題番号26370675）研究分担者（代表者：藤井彰子），2014年度-2016年度

3. 科研費基盤研究（C）「英語の音読とシャドーイングがスピーキングに及ぼす効果」（課題番号23520760）研究代表者，2011年度-2013年度

社会活動（委員など）

- 1 文部科学省「英語によるコミュニケーション能力・論理的思考を強化する指導改善の取組」事業拠点校運営指導委員（埼玉県教育委員会），2014年4月～2015年3月
- 2 第18回関東地区高等学校英語教育研究協議会「埼玉大会」，指導助言者，2014年8月
- 3 埼玉県英語教育研究会調査研究研修部，指導助言者，2005年～現在
千代田区登録ボランティア団体，TOKYO FREE WALKING TOUR（皇居東御苑を訪れる外国人観光客向け英語ツアー主催），ツアーガイド兼団体顧問，2011/07-現在

梅 津 亮 子

（論文）

- 「アンケートから見る非営利組織の基本的構造」全国公益法人協会『公益・一般法人』第846巻，2013年，pp.14-30。
- 「非営利組織における設立動機と事業分野—アンケート調査分析を中心に—」法政大学イノベーション・マネジメント研究センター『イノベーション・マネジメント』第11巻，2014年，pp.1-19。
- 「非営利組織の経営管理者層の諸相」法政大学イノベーション・マネジメント研究センター，ワーキングペーパー No.154，2014年，pp.1-32。
- 「非営利組織の形態・規模からみた人的資源の構造」法政大学イノベーション・マネジメント研究センター，ワーキングペーパー No.161，2015年，

pp.1-32。

「理事会の計画機能と監視機能」法政大学イノベーション・マネジメント研究センター，ワーキングペーパー No.163，2015年，pp.1-29。

「戦略・事業計画の策定における非営利組織の環境対応力」法政大学イノベーション・マネジメント研究センター，ワーキングペーパー No.172，2016年，pp.1-23。

(学会報告)

「アンケートから見る非営利組織の組織構造」非営利法人研究学会第17回全国大会（於：近畿大学）自由論題報告，2013年9月22日。

(その他)

「活動基準原価計算によるサービスの測定」全国公益法人協会『公益・一般法人』第880巻，2014年，pp.2-3。

興津裕康，大矢知浩司監修『新版 現代会計用語辞典』税務経理協会，2016年（辞書項目分担：工場元帳，主要材料費，副産物，満期保有目的の債券）。

岡 部 雅 史

研究論文

2013年；ラット脳内におけるタンパクリン酸化酵素C γ （プロテインキナーゼC γ ：PKC γ ）の分布 (Localization of Protein Kinase C γ in Wistar Rat Brain.) 岡部雅史 法政大学多摩研究報告 28:1~5,2013

2014年；若年（6週齢）ラット網膜における Super Oxide Dismutase (SOD) 活性と，Nitric Oxide Synthase (NOS) 活性の共存 (Co-Localization of Histochemical Activity of SOD & NOS in Young-Adult (6weeks Old) Rat.) 岡部雅史 法政大学多摩研究報告 29:43~49, 2014

- 2015年；ラット腎臓 糸球体におけるSOD活性染色の試み (Histochemical Activity of SOD in Kidney of Rat) 岡部雅史 法政大学多摩研究報告 30:11～18, 2015
- 2016年；音場型アンサンブル平面バッフルスピーカー設計の試み (Design of sound field ensemble plane baffle speaker.) 岡部雅史 法政大学多摩研究報告 31:11～19, 2016

小 黒 一 正

I. 著書

1. 加藤創太・小林慶一郎編『財政と民主主義 ポピュリズムは債務危機への道か』（共著）日本経済新聞出版社, 2017年3月.
2. 小黒一正『預金封鎖に備えよ——マイナス金利の先にある危機』（単著）朝日新聞出版, 2016年10月.
3. 小黒一正編『2025年, 高齢者が難民になる日——ケア・コンパクトシティという選択』（共著）日本経済新聞出版社, 2016年9月.
4. 斎藤誠・野田博編『非常時対応の社会科学—法学と経済学の共同の試み』（共著）有斐閣, 2016年3月.
5. 加藤久和・財務省財務総合政策研究所編『超高齢社会の介護制度—持続可能な制度構築と地域づくり』（共著）中央経済社, 2015年12月.
6. 日本再建イニシアティブ編『人口蒸発「5000万人国家」日本の衝撃——人口問題民間臨調 調査・報告書』（共著）新潮社, 2015年6月.
7. 小黒一正『財政危機の深層—増税・年金・赤字国債を問う』（単著）NHK出版新書, 2014年12月.
8. 山重慎二・加藤久和・小黒一正編『人口動態と政策: 経済学的アプローチへの招待』（共著）日本評論社, 2013年9月.
9. 池尾和人・21世紀政策研究所編『金融依存の経済はどこへ向かうのか—米欧金融危機の教訓』（共著）日本経済新聞出版社, 2013年7月.

10. 小黒一正『アベノミクスでも消費税は25%を超える』(単著) PHP研究所, 2013年6月.

II. 学術論文 (* は査読つき論文を示す)

1. *Takao Fujii, Fumiaki Hayashi, Jun Iritani and Kazumasa Oguro, "Designing an Optimal Public Pension System", Australian Economic Papers, Volume 56, 2017年3月, pp.1-24.
2. *Takahiro Hattori and Kazumasa Oguro, "An Endeavor to Estimate Seigniorage Before the End of and Immediately After the Pacific War", Journal of The Japanese and International Economies, Volume 41, 2016年9月, pp.1-16.
3. *Kenji Shibuya and Kazumasa Oguro et al., "Japanese vision on health care in 2035", The Lancet, Volume 385, Number 9987, 2015年6月, pp. 2549-2550.
4. *Ryo Ishida, Kazumasa Oguro and Junichiro Takahata, "Child Benefit and Fiscal Burden in the Endogenous Fertility Setting", Economic Modelling, Volume 44, 2015年1月, pp.252-265.
5. Kazumasa Oguro, "Challenges confronting Abenomics and Japanese public finance —Fiscal consolidation must start by squarely facing reality —", Public Policy Review, Vol.10, No.2, 2014年7月, pp. 301-318.
6. *Kazumasa Oguro and Motohiro Sato, "Public Debt Accumulation and Fiscal Consolidation", Applied Economics, Volume 46, Issue 7, 2014年1月, pp.663-673.
7. Tahashi Oshio and Kazumasa Oguro, "Fiscal sustainability under an aging population in Japan: A financial market perspective", Public Policy Review, Vol.9, No.4, 2013年9月, pp.735-750.
8. Kazumasa Oguro and Junichiro Takahata, "Child Benefits and Macroeconomics Simulation Analyses: An Overlapping-Generations

- Model with Endogenous Fertility", Public Policy Review, Vol.9, No.4, 2013年9月, pp.633-659.
9. 小黒一正・高畑純一郎「子育て支援とマクロ経済—人口内生OLGモデルの視点から—」フィナンシャル・レビュー115号, 2013年6月, pp.53-72.
 10. *Kazumasa Oguro and Motohiro Sato, "Impact of Deflation on Real Interest rate of Government Bonds", The Economic Review, Vol 64, No.2, 2013年4月, pp.147-159.
 11. *Kazumasa Oguro, Manabu Shimasawa and Junichiro Takahata, "Child Benefits and Welfare for Current and Future Generations: Simulation Analyses in an Overlapping-Generations Model with Endogenous Fertility", Asian Economic and Financial Review, Volume 3, Issue 4, 2013年3月, pp.490-511.
 12. *Kazumasa Oguro, Manabu Shimasawa, Reiko Aoki and Takashi Oshio, "Demographic Change, Intergenerational Altruism, and Fiscal Policy - A Political Economy Approach -", Studies in Applied Economics, Volume 6, 2013年2月, pp.1-15.

河村 哲二

著書・論文

編著書

1. 河村哲二編著『グローバル金融危機後の世界経済の変貌：米国——新興国経済を中心に』ナカニシヤ出版, 2017年(近刊), 総頁数344頁。
2. 河村哲二・陣内秀信・仁科伸子編・監訳『持続可能な未来の探求——「3.11」を超えて』御茶の水書房, 2014年3月27日(総頁数279頁)。
3. 河村哲二・岡本哲志・吉野馨子編著『「3.11」からの再生——三陸の港町・漁村の価値と可能性』御茶の水書房, 2013年5月2日(総頁数345

頁)。

共著書

4. 河村哲二, 他10名著『現代経済の解説——グローバル資本主義と日本経済 (第3版)』, 御茶の水書房2017年 (近刊), 総頁数未定。
5. 河村哲二・他11名著『グローバル資本主義と段階論』(御茶の水書房) 2016年3月28日, 総頁数347頁。
6. 河村哲二・他12名『グローバル資本主義の変容と中心部経済』(『グローバル資本主義の現局面 I』, 日本経済評論社, 2015年12月25日, 総頁数318頁。
7. 河村哲二・他9名著『グローバル資本主義と新興経済』(『グローバル資本主義の現局面 II』, 日本経済評論社, 2015年12月25日, 総頁数353頁。
8. 河村哲二・他?名著・SGCIME編『増補新版 現代の解説——グローバル資本主義と日本経済』御茶の水書房, 2013年4月, 総頁数410頁。

論文

9. 河村哲二「グローバル資本主義の段階論的解明—現代資本主義論の理論と方法」『季刊経済理論』第53巻第1号 (依頼原稿) 2016年4月, 26-42頁。
10. 河村哲二「アジア工業化・経済発展の世界経済的フレームワークとその転換」(馬場敏幸編著『アジアの経済発展と産業技術』, ナカニシヤ出版, 2013年4月, 総頁数259頁, 第二章)。
11. Kawamura, Tetsuji, "The Global Financial Crisis: The Instability of U.S.-Centered Global Capitalism," in Kiichiro Yagi, Nobuharu Yokokawa, Sinjiro Hagiwara and Gary Dymksi, eds., *The Crises of Global Economies and the Future of Capitalism*, Routledge studies in the modern world economy series No. 110, Routledge, 322P+, January, 2013, Chapter 2, pp.24-52.

学会発表

1. 「SGCIMEシリーズ完結の意義と課題」, SGCIME刊行シリーズ完結記念シンポジウム, 2016年8月7日, 東京大学経済学部(東京都文京区)。
2. 「グローバル資本主義の段階論的解明—現代資本主義論の理論と方法」 経済理論学会第64回年次大会共通論題「資本主義の今後と政治経済学の課題」報告, 2015年11月22日(日), 一橋大学(東京都国立市)。
3. "Crisis in the new 'Global Economic Growth Linkage' and changing frameworks of the emerging economies: from an Asian perspective," at Economic Theory Workshop, Department of Economics, University of Massachusetts, Amherst, Amherst MA01002, USA, November 17, 2014.

科学研究費補助金・同研究成果報告書

1. 文部科学省科学研究費補助金基盤研究(B) 海外学術研究インド・ブラジルの金型産業研究: 技術形成・発展段階・競争力・他地域との比較検証(2014-年度-2018年度, 課題番号26301024 研究分担者) 2014年度: 4,550千円(直接経費: 3,500千円, 間接経費: 1,050千円), 2015年度: 4,420千円(直接経費: 3,400千円, 間接経費: 1,020千円), 2016年度: 3,510千円(直接経費: 2,700千円, 間接経費: 810千円), 2017年度: 4,810千円(直接経費: 3,700千円, 間接経費: 1,110千円)。
2. 文部科学省科学研究費補助金基盤研究(C) 「グローバル金融危機・経済危機からのアメリカ経済の回復過程の特質と問題点の実態研究」(2014-2016年度, 課題番号26380327, 研究代表者)。2014年度: 2080千円(直接経費1600千円, 間接経費480千円), 2015年度: 156千円(直接経費1200千円, 間接経費360千円), 2016年度: 910千円(直接経費700千円, 間接経費210千円)。「研究成果報告書」2017年。
3. 文部科学省科学研究費補助金基盤研究(A) 海外学術調査研究「金融危機の衝撃による経済グローバル化の変容と転換の研究—米国・新興経

済を中心に」(2009-2012年度, 課題番号21252004, 研究代表者) 成果報告書, 2009年度: 9100千円(直接経費: 7000千円, 間接経費: 2100千円) 2010年度: 9360千円(直接経費: 7200千円, 間接経費: 2160千円) 2011年度: 7280千円(直接経費: 5600千円, 間接経費: 1680千円) 2012年度: 9360千円(直接経費: 7200千円, 間接経費: 2160千円)。「研究成果報告書」2013年。

在外研究

Visiting Professor, Department of Economics, University of Massachusetts, Amherst (Amherst, MA 01003, USA). 法政大学海外研修(2013年4月1日~2015年3月31日)。

学会役職等

1. 経済理論学会 代表幹事(2016年~2018年), 幹事(~2015年)。
2. 政治経済学・経済史学会 学会賞選考委員(2016-2017年)。
3. 日本学術振興会国際科学研究費(国際共同研究強化)社会科学2 審査グループ審査委員(2015年)。

胥 鵬

論文・著書

1. Xu, Peng (胥鵬)(2017a) Bank-Firm Relationship and Small Business Innovation, RIETI Discussion Paper 17-E-062
2. Xu, Peng (胥鵬)(2017b) Foreign Institutional Ownership and Risk Taking, RIETI Discussion Paper 17-E-061
3. 猿山純夫・胥鵬(2017a), 「ADR(裁判外紛争解決手続)による私的債務整理—市場活用型の新たな企業再編—」, 宮島英昭編『企業統治改革と日本企業の成長』所収, 東洋経済新報社

4. 猿山純夫・胥鵬 (2017b), 「赤字事業への投資からみた大手電機メーカーの盛衰」, 田村晶子編『国際競争力を高める企業の直接投資戦略と貿易』所収, 73-95, 日本評論社
5. 田村晶子・胥鵬 (2017), 「自由貿易推進と国際競争力の推移」, 田村晶子編『国際競争力を高める企業の直接投資戦略と貿易』所収, 163-179, 日本評論社
6. 胥鵬 (2016) 「株価と売買高から見た情報開示, 応募手続と支配権市場」, 田中亘, 森・濱田松本法律事務所編『日本の公開買付け』所収, 383-410頁, 有斐閣
7. Takahashi, Hidetomo and Xu, Peng (胥鵬) (2016) Trading activities of short-sellers around index deletions: Evidence from the Nikkei 225, *Journal of Financial market* 27, pp.132-146
8. 胥鵬 (2015a) 「ブルドックは企業価値の番犬か」 田中亘・中林真幸編『企業統治の法と経済～比較制度分析の視点で見るガバナンス～』, 有斐閣, pp.241-260
9. Xu, Peng (胥鵬) (2015) Risk taking and firm growth, RIETI Discussion Paper 15e061
10. 胥鵬 (2015b) 「株式持合を打破し, 攻めの経営へ」『ビジネス法務』Vol.15/No.11, p.1
11. Shimizu, Katsutoshi and Xu, Peng (胥鵬) (2015), Costs of Bank Equity Offerings in Response to Strengthened Capital Regulation,. Available at SSRN: <http://ssrn.com/abstract=2565276>
12. 胥鵬 (2013) 「クロスボーダー・ヘッジ・ファンド・アクティビズムの経済分析」, 武智一貴編『市場取引の多様性と制度の応用経済分析』所収, pp.157-181, 日本評論社
13. 宮島英昭・齋藤卓爾・胥鵬・田中亘・小川亮 (2013) 「日本型コーポレート・ガバナンスはどこへ向かうのか (上) (下) —— 『日本企業のコーポレート・ガバナンスに関するアンケート調査』から読み解く ——」

杉浦未樹

本

Linking Cloth/Clothing Globally. The transformation of Use and Value in 18th-20th Centuries, Forthcoming 2017. (Main Editor, Forthcoming 2017, Under Review)

水井万里子, 松井洋子, 杉浦未樹編『アジア遊学: 世界史のなかの女性たち』勉誠出版, 2015年

水井万里子, 松井洋子, 伏見隆史, 太田敦, 杉浦未樹編『女性から描く世界史』勉製出版, 2016年

論文

「布と衣の世界史構築とグローバルヒストリー」羽田正編『グローバルヒストリーの可能性』山川出版社 2017年秋刊行予定 (出版確定)

「アフリカプリント物語 ファッションのグローバルヒストリー」飯田真理子他編『グローバルヒストリーズ』2017年冬刊行予定 (出版確定)

「近世商都アムステルダムと商人邸宅街—都市拡大と商人集団の集住をめぐる—」『都市史研究』34号, 山川出版社, 2017年11月刊行予定 (出版確定)

“Redye and Make-over as Promoters of Fashion Industry. Changing Structure of Kyoto’s Kimono Fashion Industry” Paper for International Symposium “Popularizing Fabrics and Clothing. Kyoto Yuzen Industry in broader perspective, 1600-1970.” June 3rd, 2017, Ritsumeikan University, Kyoto.

“Japan and the Netherlands selling African prints in 1960s: Trading structure, Market formation and the Determinants of Price”, Paper

- presented at Third Kansai Workshop on Global Fashion Business
- "Textile Industry and Fashion Business in the 19th and 20th centuries: International Comparison"
- (2017年3月7日京都大学大学院経済学研究科)
- "Slave Cloth and Clothing in the Early Modern World", Paper presented at the International Conference Dressing Global Bodies: Clothing Cultures, Politics and Economies in Globalizing Eras, c. 1600s-1900s, July 7th, 2016, Alberta University, Alberta, Canada
- "Old and New Techniques in Recycling Kimono Clothing: A Connection?", Paper presented at Fashion and Technology: Consumers, Democratization of Luxury, and New Technologies, SHOT, June 24th, 2016, Singapore National University.
- 「オランダは日本のアフリカプリント生産をどう見たか ～Vlisco (Van Vlissingen) 社の1960年の調査報告書から～」 「シンポジウム:20世紀日本ファッション産業の仲介者たち」にて発表報告, 立命館大学, 2016年6月5日。
- "Urban History and Micro History. Narrowing the Distances between Friends living apart", Paper presented at International Conference, Applying Micro History in EHESS, 15th March, 2016.
- "Slave Clothing and Early Modern Dutch Textile Circulations in the Indian Ocean World", Paper Presented at Transcending Fibers and Regions: Global Manufacture and Circulation of "Cheaper" Cloth-Clothing, 17th-20th Centuries For the Global History Seminar at EHESS, Paris, 4th March, 2016.
- "Garments for sail and textiles for slaves: Creation of Cheaper Cloth and Clothing in Cape Town in the 18th century", in M. Sugiura ed., Linking Cloth-Clothing Globally, Original Paper presented at WEHC (World Economic History Conference) Kyoto August 4th, 2015

「近世ケープタウン女性の家財運用—財産目録とオークション記録の分析—」『女性から描く世界史』水井万里子, 松井洋子, 伏見隆史, 太田敦, 杉浦未樹編『女性から描く世界史』勉製出版, 2016, 51-74頁

「店が無いのにモノが溢れる?: 十八世紀ケープタウンにおける在宅物品交換と女性」, 水井万里子, 松井洋子, 杉浦未樹編『アジア遊学: 世界史のなかの女性たち』勉誠出版, 2015, 195-204頁

“Between Material Affluence and Share. Women’s Private Commodity Exchange in 18th century Cape Town”, in H. Shin, S. Majima and Y. Tanaka (eds.), *Moving Around: People, Things and Practices in Consumer Culture* (Forum for History of Consumer Culture: 2015), pp. 61-70

小林信也との共著「行商と古着商—近世江戸とアムステルダムの都市内商業における周縁性の比較考察」田村愛理, 『国家の周縁—特権・ネットワーク・共生の比較社会史』刀水書房 2015年, 201-240頁。

with Genki Takahashi “Maintaining Polycentric Cities: Real Estate strategy of Mennonite Families Mesdag-Cnoop in Bolsward, Friesland”, Paper presented at ESSHC, University of Vienna, April 2014. “Evolution of Urban Network in Friesland. A Disintegration?”, in *Territory and Urban Settlement along Water: Comparative Studies on Friesland and Other Areas in History*, Proceeding for the Roundtable at Provinciehuis Friesland, September, 2012, pp. 9-13

“Tailors and Secondhand Circulation” Paper presented at “Session” Second Hand Circulation in Global Perspective” Session Co-Organizer and Presenter, WEHC Stellenbosch, July 14th, 2012. “Secondhand and World History” Paper presented in the International Symposium, “Secondhand and World History. Resale and Reuse of cloth and clothing” organized by Miki Sugiura, Ilja van Damme and the Group “Eurasia and New World History” at Institute for Advanced Asian Studies,

The University of Tokyo, 4. February 2012.

“Remade, Used, and Rags: Three Layered Distribution Systems of Second-hand Clothing in Early Modern Edo” , Paper presented at Conference “Consuming Textiles Through Their Uses and Reuses” in National Museum of Ethnology(Minpaku), Osaka, February 8th, 2012

田 中 優 希

【論文】

1. Yuki Tanaka (2014), “The Effect of Continuous Disclosure of Environmental Report,” Kunio ito, Nnakano Makoto (Eds.), International Perspectives on Accounting and Corporate Behavior, Springer, pp.247-259.
2. 木村麻子・田中優希・西村三保子・挽文子（2016）「実証的研究（1）」「実証的研究（2）」, 日本会計研究学会スタディ・グループ（主査・北村敬子）(2016)『わが国における女性会計研究者の現状と課題 最終報告』第Ⅵ章・第Ⅶ章
3. 田中優希（2016）「資産除去債務初年度適用時の特別損失に関する実証的考察」, 『青山経営論集』西村優子教授退任記念号

【研究発表】

1. Charles H. Cho, Giovanna Michelon, Yuki Tanaka (2013) “Dose Environmental Disclosure Influence Cost of Capital? An Empirical Investigation of Japanese Companies,” European Accounting Association, 5 May 2013, Paris, France
2. Charles H. Cho, Giovanna Michelon, Pietro Bonetti, Yuki Tanaka (2014) “Environmental Disclosure ant the Cost of Capital: Evidence from the Fukushima Nuclear Accident,” European Accounting Association, 22

May 2014, Tallinn, Estonia

3. Yuki Tanaka(2015) “Dis the First-Year Disclosure of ARO Affect investors’ Decision Making? – Case of IFRS Convergence in Japan,” Asian-Pacific Conference on International Accounting Issues, 3 November 2015, Gold Coast, Australia
4. 田中優希 (2015) 「資産除去債務初年度適用時の特別損失」, 日本会計研究学会, 2015年9月7日, 於: 神戸大学
5. 日本会計研究学会スタディ・グループ (主査・北村敬子) (2016) 「わが国における女性会計研究者の現状と課題 最終報告」, 日本会計研究学会, 2016年9月12日, 於: 静岡コンベンションアーツセンター

武 智 一 貴

論文

Daily Gravity, RIETI Discussion Paper 16-E-095, 2016

The Quality of Distance: Quality Sorting, Alchian-Allen effect, and Geography, RIETI Discussion Paper 15-E-018, 2015

The Price of Distance: Pricing to Market, Producer Heterogeneity, and Geographic Barriers (with Kano and Kano), RIETI Discussion Paper 15-E-017, 2015

Exaggerated Death of Distance: Revisiting Distance Effects on Regional Price Dispersions (with Kano and Kano), Journal of International Economics 403-413, 90, 2013

Understanding the Productivity Effect of M&A in Japan: An Empirical Analysis of the Electronics Industry from 1989 to 1998, Japan and the World Economy 25-26, 1-9, 2013

学会発表

- Western Economic Association International Meeting, 2013, Keio University (Exaggerated Death of Distance: Revisiting Distance Effects on Regional Price Dispersions)
- European Trade Study Group, 2013, University of Birmingham (The Price of Distance: Pricing to Market, Producer Heterogeneity, and Geographic Barriers)
- Canadian Economic Association Annual Meeting, 2014, Simon Fraser University (The Price of Distance: Pricing to Market, Producer Heterogeneity, and Geographic Barriers)
- Japan Society of International Economics Spring Meeting 2016, Gakushuin University (The Quality of Distance: Quality Sorting, Alchian-Allen effect, and Geography)

張 欣

- ① 「還元歴史の色香」, 『読書』 雑誌, 北京生活・読書・新知三聯書店, 2014年7月。
- ② 「怎一個“怨”字了得——論張愛玲遺作『同学少年都不賤』, 『無言之美——孫玉石教授八十華誕記念集』 所収, 北京十月文芸出版社, 2015年11月。
- ③ 「布拉格私語」, 『書城』 雑誌, 上海書城雜誌有限公司, 2016年12月。
- ④ 「現代ファッション文化」「コミュニケーションの道具」, 『中国文化事典』 所収, 丸善出版2017年4月。
- ⑤ 「魯迅図書館与越南村」, 『書城』 雑誌, 上海書城雜誌有限公司, 2017年5月。「梅娘与満洲文壇」, 『偽満洲国文学研究在日本』 所収, 北方文芸出版社2017年(予定)。

永岡文庸

著書

- ①「三菱自動車の闇 スリーダイヤ腐蝕の源流」(共著 毎日新聞社 2016年7月)
- ②「経営入門28講」電子版 (俯瞰工学研究所 アマゾン・キンドル 2013年4月) 2012年3月に刊行した学生向け教科書(260ページ)のネット版

論文

- ①「三菱は国家なりの神話は崩壊」(毎日新聞 エコノミスト誌) 2016年6月14日号, 28~29ページ)

社会活動

- ①「フォーラム・エネルギーを考える会 (E T T)」会員・コーディネーター (2011年10月から現在)
- ②日本経済研究センター「G S R 大会」審査委員・顧問 (11年10月から14年12月まで)
- ③日本経済新聞・広島経済懇話会講師「ドイツ・フォルクスワーゲンの不正」(2015年11月)
- ④「中国金融研究会」(在日中国人との交換会) 会員 (2010年5月から現在)

古澤直人

書評

- 「2014年度歴史学研究会中世史部会大会報告批判」(『歴史学研究』926, 2014年)

「書評・近藤成一著『鎌倉時代政治構造の研究』」（『歴史評論』806, 2017年）

口頭発表

「平治の乱の構図理解と経緯・結末」（中世史研究会例会, 2013年6月28日）

学会活動

日本古文書学会評議員, 事務局幹事

鎌倉遺文研究会編集委員

法政史学会評議員

藤 沢 周

〈著書〉

『界』（2015・4・25刊, 文藝春秋）

『武蔵無常』（2016・3・20刊, 河出書房新社）

『サラバンド・サラバンド』（2016・4・25刊, 新潮社）

『安吾のことば』（2016・12・21刊, 集英社新書）

『あの蝶は、蝶に似ている』（2017・1・20刊, 河出文庫）

『武曲』（2015・3・10刊, 文春文庫）

『波羅蜜』（2015・11・20刊, 光文社文庫）

『ベスト・エッセイ2013』『ベスト・エッセイ2014』『ベスト・エッセイ2015』

（それぞれエッセイ所収, 2014～2016年刊行, 光村図書）

他

〈作品〉

「指宿」（「文學界」2013・8月号）

「化野」（「文學界」2014・1月号）

- 「寿」(「文學界」2014・3月号)
「宿根木」(「文學界」2014・5月号)
「比良」(「文學界」2014・7月号)
「八橋」(「文學界」2014・9月号)
「山王下」(「文學界」2014・11月号)
「未遂」(「新潮」2014・10月号)
「禊」(「新潮」2015・8月号)
「或る小景，黄昏のパス」(「新潮」2016・3月号)
「武蔵無常」(「文藝」2016・春季号)
「物狂」(「三田文学」2015・春季号)
「武曲Ⅱ アルデバラン」(「別冊文藝春秋」2017・3月号)
「武曲Ⅱ コルネフォルス」(「別冊文藝春秋」2017・5月号)
「葦沢」(「江古田文学」87号，2014)
他多数

<時評・書評・エッセイ等>

- 「3冊の本棚」(「東京新聞」2013・4月～現在，毎月連載)
「随筆 木もれび」(「神奈川新聞」2013・4月～現在，毎月連載)
「アート逍遥」(「共同通信」2015・1月～現在)
「剣道と私」(「神奈川県剣道連盟」2013・5月)
「高樹伸子『香夜』書評」(「群像」2014・3月号)
「妙高」(「ジパング倶楽部」2014・3月号)
「俳句という殺人」(『高岡修句集』解説・2014・8月)
「心の糸」(「武道」2014・11月号)
「墓参」(河出ムック『谷崎潤一郎』2015)
「明日，何をやった？」(「群像」2015・3月号)
「新潟の兄にゃ，安吾」(「新潟日報」2015・2月)
「追悼・河野多恵子」(「すばる」2015・4月号)

「幻の喝」(「月刊住職」2015・7月号)
 「世阿弥の誘い」(「文藝春秋」2015・8月号)
 「羽田圭介『スクラップ・アンド・ビルド』書評」(「新潮」11月号)
 「無限深遠・筆尖の思考」(『石川九揚著作集』第3巻解説, 2016・4月)
 「旅は、やはり続く」(「トラベル&ライフ」2016・9月号)
 「崔実『ジニのパズル』書評」(「新潮」2016・10月号)
 「古井由吉『ゆらぐ玉の緒』書評」(「文藝」2017・夏季号)
 他多数

<講演・テレビ出演等>

「FM未来授業」(2015・10月 FM東京から全国放送)
 「なぜいま『武蔵無常』を論じるのか」(「西部邁ゼミナール」出演, 2016・4月)
 「新潟市民大学」講演(2016・9月)
 「法政大学新潟校友会」講演(2016・5月)
 「ご本, 出しときますね?」出演(BSジャパン, 2016・5月)
 「新潟県警察友の会」講演(2016・6月)
 「武蔵野大学講演」(2016・7月)
 「東北私学研修大会講演」(2016・7月)
 「藤沢周『プエノスアイレス午前零時』舞台化」(行定勲演出, 2015・12月)
 他多数

<文学賞選考委員等>

「舟橋聖一文学賞」選考委員(2013・4月～現在)
 「舟橋聖一顕彰青年文学賞」選考委員(2013・4月～現在)
 「文藝賞」選考委員(2014～現在)
 「開高健ノンフィクション賞」選考委員(2013・4月～現在)
 「ベスト・エッセイ」選考委員(2013・3月～現在)

「J-COM作文コンクール」審査委員（2013・4月～現在）

他

明 城 聡

【著書】

[1] プロダクト・イノベーションの経済分析, 大橋弘 (編), 東京大学出版会, 2014.

【原著論文】

- [1] 名城聡・田中拓朗, 『都市ガスの新規参入に関する地域格差の分析』, ガス事業研究会報告書, 都市エネルギー協会, 2014, pp.115-132.
- [2] 田中拓朗・名城聡, 『都市ガス事業者の地域別参入格差に関する考察』, ガス事業研究会報告書, 都市エネルギー協会, 2015, pp.113-132.
- [3] 名城聡・田中拓朗, 『都市ガス産業の生産性と規制緩和の分析』, ガス事業研究会報告書, 都市エネルギー協会, 2016, pp127-143.
- [4] 名城聡・田中拓朗, 『公営ガス事業者の事業譲渡に関する生存時間分析』, ガス事業研究会報告書, 都市エネルギー協会, 2017, pp127-140.

【ディスカッション・ペーパー】

[1] Myojo, S. and H. Ohashi, "Effect of Consumer Subsidies for Renewable Energy on Industry Growth and Welfare: Japanese Solar Energy," 東京大学経済学部ディスカッションペーパー, CIRJE-F-925, 2014.

【学会・ワークショップ等の発表】

- [1] 名城聡, 『離散選択モデルによる構造推定の現状と課題』, 日本経済学会秋季大会特別セッション, 神奈川大学, 2013年9月.
- [2] Myojo, S., and Y. Kanazawa, "On Asymptotic Properties of the

Parameters of Differentiated Product Demand and Supply Systems When Demographically-Categorized Purchasing Pattern Data are Available”, ポリシー・モデリング・ワークショップ, 政策研究大学院大学, 2013年7月.

- [3] 明城聡, 『都市ガス事業における地域別参入格差について』, ガス事業研究会, 2015年11月.

【競争的研究資金の獲得】

- [1] 平成25～28年度 科学研究費補助金 基盤研究 (B) 25285077 『ネットワーク産業の改革の経済効果と競争政策上の課題』 (研究分担者)
- [2] 平成27～29年度 科学研究費補助金 基盤研究 (C) 15K03466 『都市ガス産業の規制緩和に関する構造推定と政策評価』 (研究代表者)
- [3] 平成27～30年度 科学研究費補助金 基盤研究 (B) 50233854 『合理的に行動する生産者と非合理的な消費者パラダイムの実証産業組織論における検証』 (研究分担者)

【討論者】

- [1] Onishi, K. et al. “Free Entry and Social Inefficiency in Vertical Relationships: The Case of the MRI Market,” 日本経済学会春季大会討論者, 2016年6月.
- [2] Isogawa, D. and H. Ohashi, “Effects of Dynamic Electricity Pricing on Residential Customers,” 日本経済学会秋季大会, 2016年9月.

【その他の社会活動】

- [1] ガス事業研究会委員 (都市エネルギー協会), 2013年6月～現在.
- [2] 日本経済学会春季大会プログラム委員, 2014年.
- [3] 日本経済学会秋季大会座長 (環境セッション), 2016年9月.

